

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171100185		
法人名	有限会社ラポール		
事業所名	グループホーム 神埼ひだまり		
所在地	佐賀県神埼市神埼町竹4694-1		
自己評価作成日	平成27年 1月 26日	評価結果市町村受理日	平成27年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成27年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『笑顔と真心ですべてはご利用者の為に』を職員一同常に心がけ、ご利用者に接しております。敷地も広く、畑で野菜を沢山作って料理で使用したり、花壇には沢山の花を植え暖かい日には花を見ながらゆっくりとした時間を過ごしていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

郊外の田園地帯に位置する自然豊かなホームである。敷地内の畑で野菜を栽培することで、栽培方法を聞いたり、地域住民と交流されている。また、夏休みにはラジオ体操や花火大会の場として、駐車場を地域に提供されている。登下校中の小学生が、トイレを借りて気軽に立ち寄り、地域からの相談等を受けたりと、開所から10年ということもあり、地域の福祉の拠点となりつつある。また、ホームの理念や方針を、管理者を中心に職員全員で共有しながら実践されているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲示し、全職員必ず見るようにしており、会議やカンファレンスなどの際にも、共有して実践につなげている。	「笑顔と真心ですべてはご利用者の為に」という事業所独自の理念を作成し、玄関に掲示されている。理念については、日常業務の中や会議等で職員全員が共有し、実践につなげられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者は定期的に、公役に参加しており、夏休みは集落のラジオ体操の場所として、駐車場を利用して頂いている。また、地域での行事に参加したり、子供クラブの方と子供たちとの交流を計画し実施している。	通学路沿いということもあり、日常的に地域住民や地域の子どもと交流されている。地域の行事や子どもクラブの行事にも積極的に参加され、夏休みには地域のラジオ体操の場として、駐車場を提供されている。また、地域の子どもとの花火大会も催されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の方の対応などを話しているまた、地域との交流の際に、介護保険や認知症などの相談があればその都度相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、活動報告し、会議での意見を大切に職員にも伝えサービス向上に取り組んでいる。	2ヶ月に1回公民館で開催し、入居者家族や地域代表者、民生委員、地域住民、市の職員等の参加があっている。活動報告や地域の悩み等、さまざまな話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かすよう努められている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に毎回市役所より参加して頂いており情報交換を行うようにしている。	市の担当者とは連絡を密に取り、相談し易い良好な協力関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを使用した勉強会を行い禁止対象となる行為を理解し、玄関の施錠や特に言葉での拘束をしない様注意している。	身体拘束のマニュアルを作成し、玄関の施錠を含め身体拘束等は一切されていない。身体拘束をしないケアについては、会議や日々の業務の中で職員全員が共有しながら取り組まれているが、勉強会については、平成24年度を最後に実施されていない。	今後、職員の意識や理解を保つため勉強会は、定期的実施されることに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に勉強会を行い、理解し日頃よりご利用者や職員の状態を観察し防止に努めている。発見時には、すぐに通報できるように通報の方法や場所が見れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護に関する制度を利用する方はおられないが、必要時には、すぐに対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に事前に訪問し、事業所の説明を行ったり、見学にも来ていただきご利用者やご家族に不安な点、疑問点が無いかを聞き、理解、納得して頂けるようにしている。契約時にも更なる理解、納得を図っている。改定の際にも同様に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での意見や面会などの際に十分話を聞くようにしている。また、外部へ意見を表せるように契約の際に重要事項にて苦情申請場所を説明している。その際必要であれば、代表と話し合うようにしている。	運営推進会議や面会の際に、家族等の意見や要望を聞き、それらを運営に反映するよう努められている。出された意見をすぐに検討、対応することで、話し易い雰囲気作りをされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃より、職員の話聞くようにしており、その際重要な意見などがあれば、代表と話し合うようにしている。	会議や日々の業務の中で、職員の意見や提案を聞き、運営に反映するよう努められている。その際は、話し易い雰囲気となるよう配慮されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や実績、勤務状況の把握に努め労働時間や給与についても代表と話し合い職員がやりがいを持てるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部での勉強会は、行っているが、外部研修への機会が少ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアネット神埼への参加や研修会への参加で交流を図り質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申込みに来られて際に、ご利用者やご家族のおかれている環境や困っている事を聞き、ご利用者との面談時も話を傾聴し、不安や望んでいることを理解し不安を和らげ、入所できるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や入所申込みに来られた際に、ご家族の状況、困っている事などを聞き、自宅などの訪問時にこれまでの生活やこれからの事をなどを話し合い、ご家族の不安が軽減できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来る限り、ご利用者やご家族が必要としている支援やサービスが受けられるように、必要であれば他事業所や関係事業所に相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者との関わりを多く持ち、一緒に過ごすことで、喜怒哀楽を共にし、学ぶことも多く畑仕事や料理の味付け等、多くのアドバイスを頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員だけでなく、ご家族の力も借りながらご利用者を支援させて頂いている。また、面会時にご家族とコミュニケーションを図り、何でも話し合える関係となるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者全員が、馴染みの場所に出向くことが出来ていないが、昔からの友達が面会に来られたり、ご家族と、墓参りに行かれたりされている。	友人、知人が継続的に来訪されている。その際は、ゆっくり過ごせるよう配慮されている。また、墓参りや自宅近くの美容室、畑への同行等、馴染みの場所とも関係が途切れないよう、個別に支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関わりが、多く持てるように、皆でレクリエーション、創作活動を行っている。時には食事の際など、ご利用者同士が、食事のお世話などをされる場面もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、病院や移動された施設に面会に行ったり、ご家族も相談事があったら連絡をされたり、ホームを訪問されたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者やご家族から思いや、意向を聞きご利用者の思いを大切にしている。これまでの生活パターンや現在の生活パターンを見て、ご利用者の思いをくみ取る様にし本人本位に検討している。	日ごろの会話の中で、一人ひとりの思いや意向を聞かれている。困難な場合は、家族の意見や生活習慣等から本人本位に検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前や入所時に生活歴やこれまでの生活について、ご利用者、ご家族、担当ケアマネに伺い把握に努めている。入所後も同様に話を聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録に1日の記録を記入し、状態を把握し職員で統一したケアが出来るように業務日誌や申し送りノートに記入したり、口頭で伝えあったりし、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスで、出た意見をまとめ、介護計画を作成している。また、ご家族には面会時や電話などで意見や要望を聞き取り、計画に取り入れている。	本人や家族、看護師等と話し合い、それぞれの意見を反映した介護計画が作成されている。毎月モニタリングを行い、必要に応じて計画を修正、変更されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践などをケース記録に記入しカンファレンスを行い、職員間での情報を共有しながら計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者、ご家族の要望に柔軟に対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校の通学路になっており、日頃より小学生がトイレを借りたり、お茶を飲んだりしている。避難訓練では近隣の方や神埼消防署に参加してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については、ご利用者、ご家族の希望にて、今までのかかりつけ医か、ホームの協力医療機関か選んでいただいている。また、どの医療機関に対しても連携を取り適切な医療を受けられるように支援している。	希望に応じてかかりつけ医や協力医療機関に受診し、付き添い支援されている。協力医療機関や眼科の往診が実施されている。また、協力医療機関とは、緊急時等24時間体制の協力関係が構築されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、週1回の健康チェックや緊急時の対応、日頃の様子を相談しアドバイスを頂き、適切な受診や看護を受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、定期的に面会し、担当医や、看護師、ソーシャルワーカーから状態を聞き、早期退院に向けて、病院側、ご家族の意見を聞きながら対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者、ご家族の希望があれば、終末期の対応は可能であり、入所契約時にも説明している。また早い段階から、ご利用者、ご家族にも終末期のあり方をお話している。	重度化した場合や終末期のあり方については、契約時に説明されている。希望があれば看取りもされており、状態に応じて家族や医療機関と話し合いながら、支援に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、職員に説明しており、主治医や訪問看護に応急手当の方法を聞いたり、定期的にマニュアルを確認し対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署の立会いのもと避難訓練を行っている。また近隣の方にも参加して頂いたり、運営推進会議で、避難の協力、避難場所なども明確にしている。	年2回、消防署立会いのもと、昼夜想定で避難訓練が実施されている。訓練の際は、地域住民や地域の消防団の参加があり、地域との協力体制も構築されている。また、水害等に対する避難場所、経路等も確認されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬すること、相手の立場に立って物事を考え対応することを会議やカンファレンスの際に話し、プライバシーには十分配慮し羞恥心や自尊心を傷つけないように言葉かけし行動するようにしている。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応がなされている。対応については、会議等で確認し、職員全員が共有されている。また、排泄や入浴支援の際もプライバシーに配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るご利用者は、本人の意思を尊重し、畑仕事等したい方には、して頂いている。自己決定が難しいご利用者には本人の立場に立って、思いやり希望を察知できるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間だけが決まっているが、それ以外は出来る限り、ご利用者が過ごしたいように生活していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身だしなみにも配慮し、衣類等が汚れている場合には、着替えて頂くようにしている。2ヶ月に1回ボランティアによる散髪や、お化粧のサービスのボランティアにも来ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日ではないが料理の下ごしらえや、味付けをお願いしたり、嗜好物をうかがったりしている。また畑で採れた野菜を料理に使っている。	敷地内の畑で入居者と一緒に作った野菜を献立に取り入れたり、おやつと一緒に作ったり、出前を活用したりと、食事が楽しみなものになるよう支援されている。また、入居者と職員と一緒に準備や片付けをされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事、水分摂取量はチェックし把握に努めている。夏場などは、水分摂取回数を増やしたり、食事摂取量が低下されたご利用者に対しては、摂取しやすいものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、言葉かけし出来る方は、見守りし、介助が必要な方は、介助している。また希望者には定期的に歯科医院より口腔ケアを行っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、排泄の失敗が少なくなるようにトイレ案内している。立位が不可能であっても尿意、便意がある際には、トイレにて排泄介助を行う様にしている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の野菜を多く取り入れ、デザートヨーグルトを使用したり、腹部のマッサージや体を動かして頂くようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日中であれば、希望に応じて入浴している。拒否等があれば、時間を置いたり、職員を交代したり、日を改めてお誘いしたりと気持ちよく入浴できる様にしている。	希望に応じていつでも入浴が可能である。入浴を拒否される場合は、言葉かけ等を工夫しながら支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に合わせ、昼夜逆転などが無い限りは、昼夜休みたい時に休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報を何時でも見れるようにし、副作用などについても薬剤師の指導頂き薬を把握し支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や嗜好、個人に合わせた役割を持っていただきレクリエーションや畑仕事、花の世話、洗濯物たたみや掃除を出来る限り行っていただくようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者、ご家族の希望にて外出、外泊されたりホームで計画しドライブに出かけたり、広告などをみて、催し物に出かけたりしている。また天気の良い日には集落に散歩に出かけている。	日常的に散歩やドライブに出かけられている。季節の花見や地域の行事への参加等、普段は行けないような場所へも外出支援されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の希望によりご家族と相談し少ない金額で所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者から電話の希望があれば自由に電話をかけて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は大きな物音をたてないように配慮し、落ち着いて過ごしていただけるように季節の花や飾り物を飾ったり、生活感を重視している。光や温度湿度にも十分配慮している。	季節の花や装飾品を飾り、季節感を採り入れられている。また、光や温湿度の管理、大きな音をたてない等、居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにテーブルやソファを置いており、自由に好みの場所に仲良し同士で話したりくつろいだりご利用者間で空間、居場所が出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者やご家族と相談し、今まで使用されていた物や、写真などは自由に持って来て頂き、必要であればご自宅からホームまで運ぶ様にしている。	ダンスや写真等、使い慣れたものや好みのもの等持ち込みが可能である。自宅からの運搬の支援もされている。また、自宅を訪問し、これまでの生活での居室の中の配置と変わらない環境となるよう、配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や、トイレ、風呂場には手すりを漬けて入り口には名前を書き自ら移動できる様にしている。障害となるものはなるべく置かないようにし、安全な環境づくりに心掛けている。		